



## 好きな学校 素敵な学校

以前のこと、教頭会でいい言葉を知りました。研修でとある教頭が講演会で聞いてきたということで、一 教師は誰でも学校が好き。つまり「好きな学校」は当たり前。だから「す」と「き」の間に「て(手)」を入れて、「すてきな学校」にしましょう。一という言葉。

素敵な学校ってなんていい響きなんでしょう。素敵な先生じゃなくて学校なんですから話が大きいというかすごいような気がします。建物がきれい、友達がやさしい、勉強が楽しい、先生が頼りになる等々。そこはいろいろあっても、とにかく学校全体が同じ方向で進んでいくことが第一歩だと思うのですが…。

先ほどの「手を入れる」という意味は、「ひと手間かける」あるいは「工夫すること」と自分なりに解釈しています。保護者や地域の方が何も言ってこないことをよしとせず、時・場所・状況・目的に合わせてひと手間かけて工夫することが大切かと。しかし間違えてはならないのは、それらは決して過剰なサービスを意味しているわけではなく、あくまで

学校管理下における教育的な観点によるものだと自分は考えています。

ただ丁寧でやさしくておもしろくて、もっと言えば楽な学校は素敵とは言えないでしょうね。子どもが持っている『のびしろ』をそれぞれの成長に応じて伸ばしていく。時として負荷をかけることも必要でしょう。そしてやり遂げたときの喜びを子どもたちに味わわせることができる学校。それは素敵な学校のひとつだと思います。

みなさんの素敵な学校って何でしょうか。